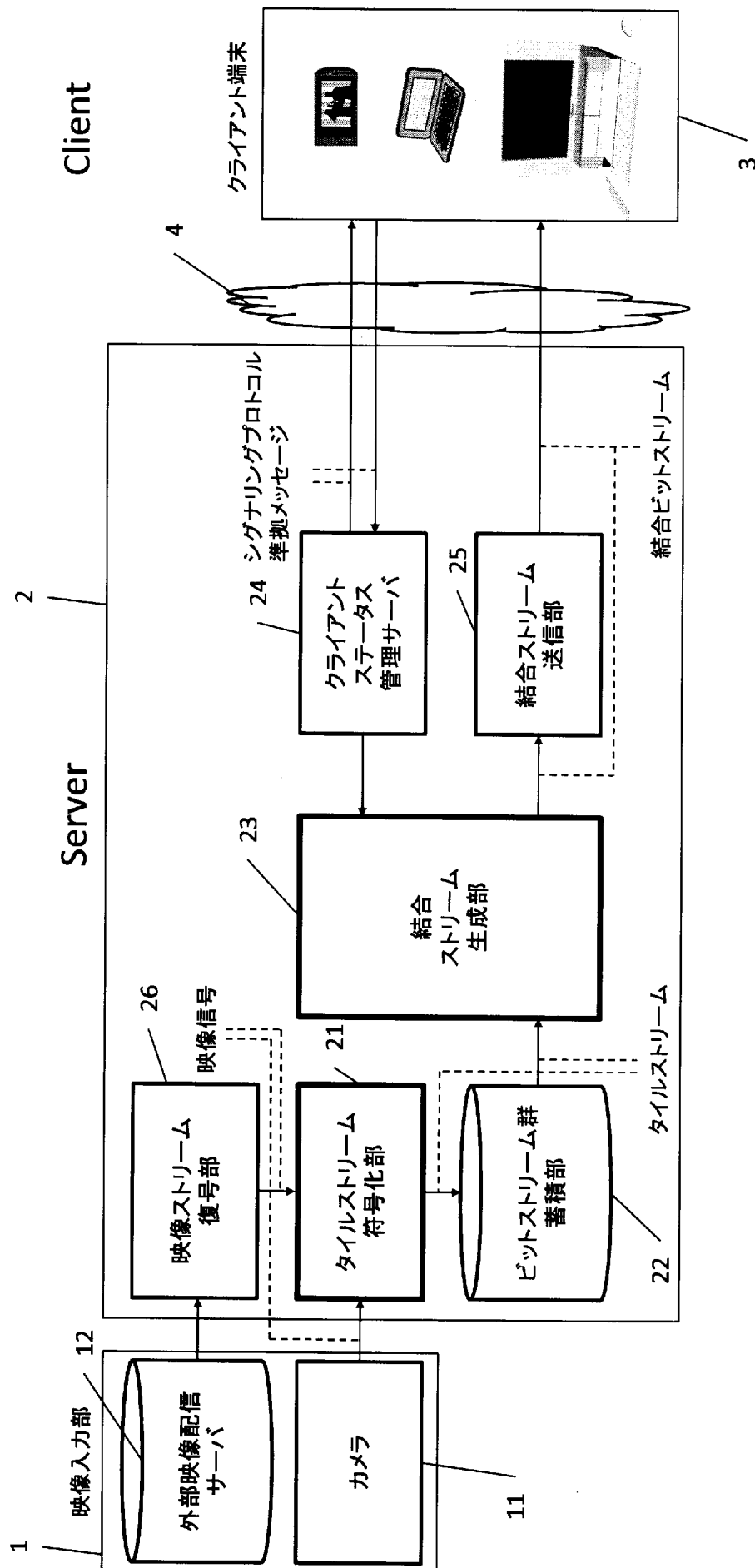
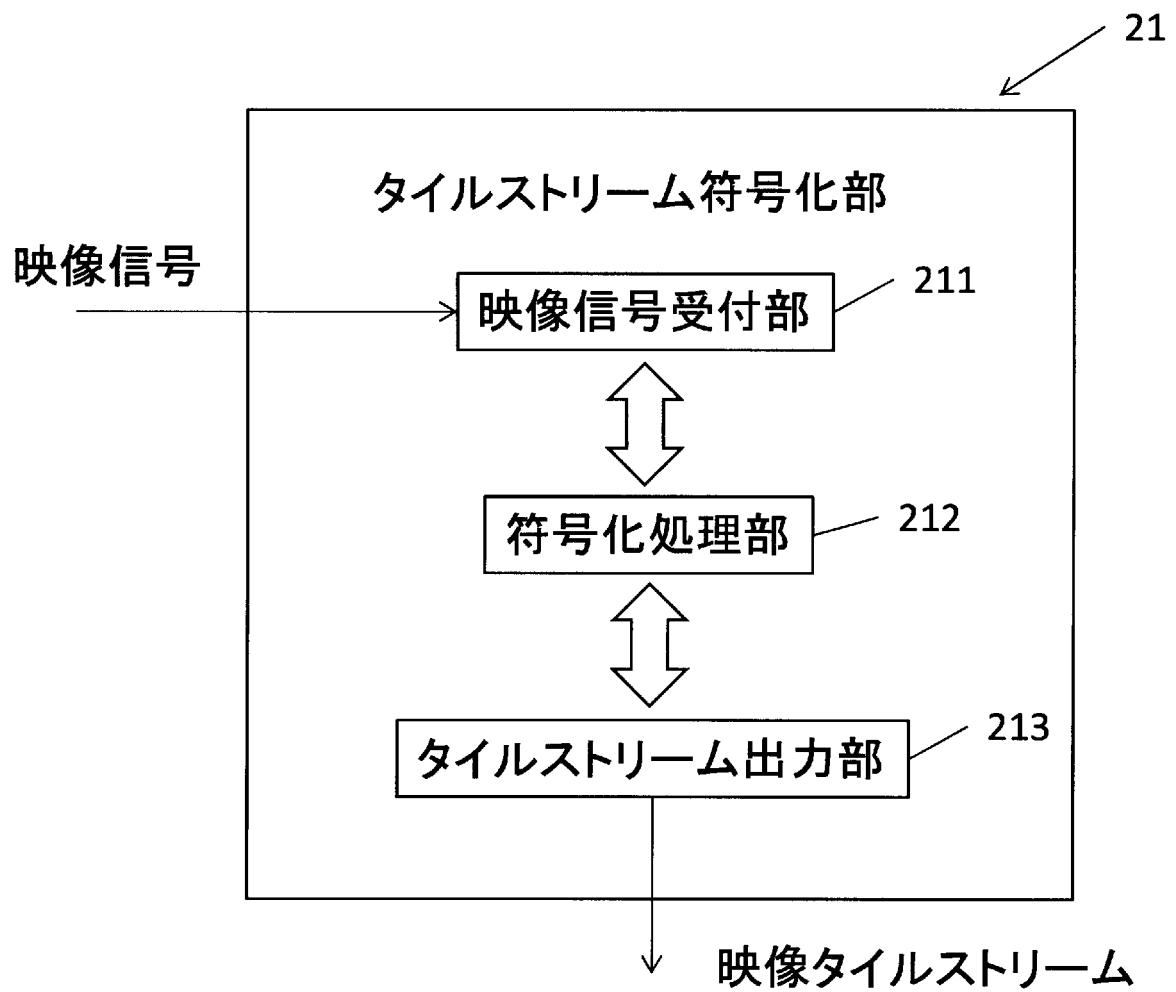


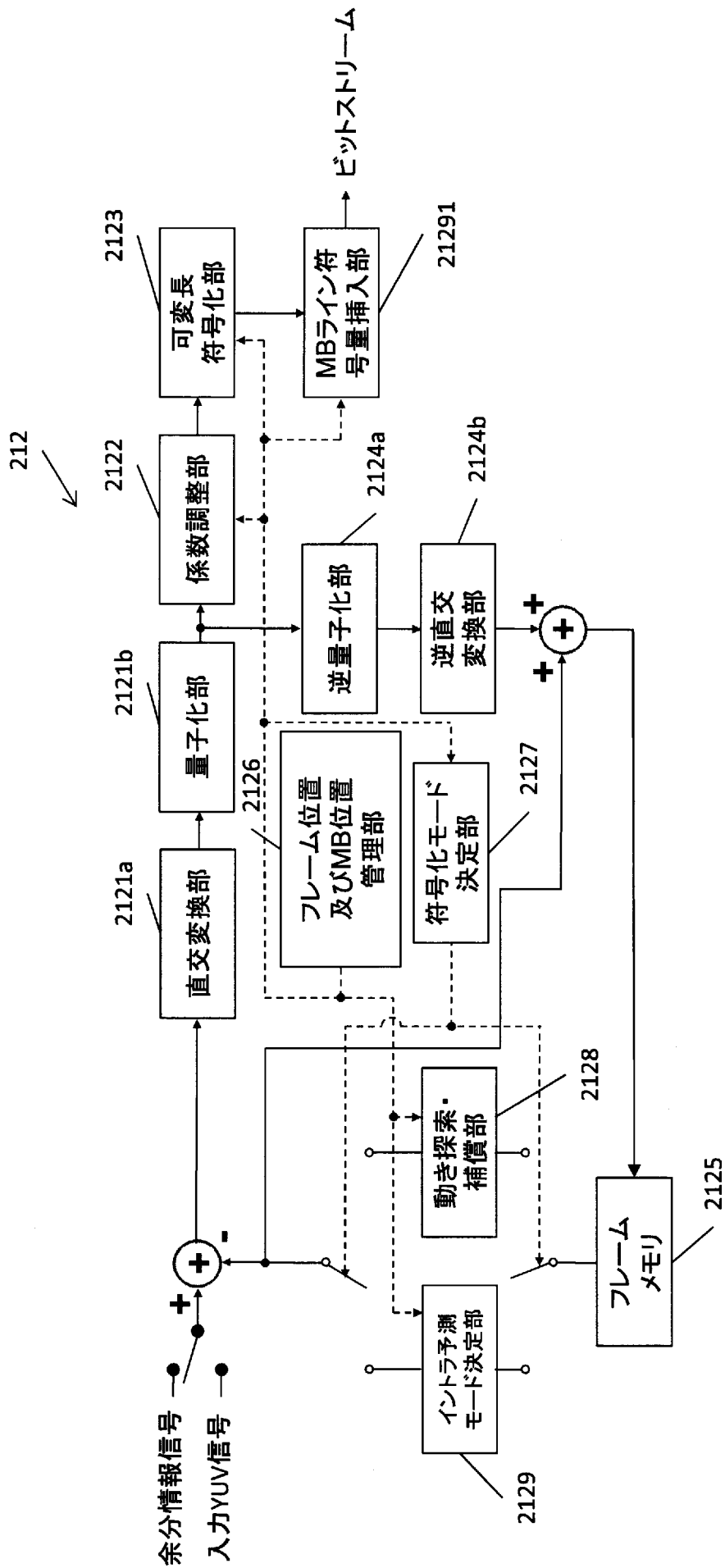
[図1]



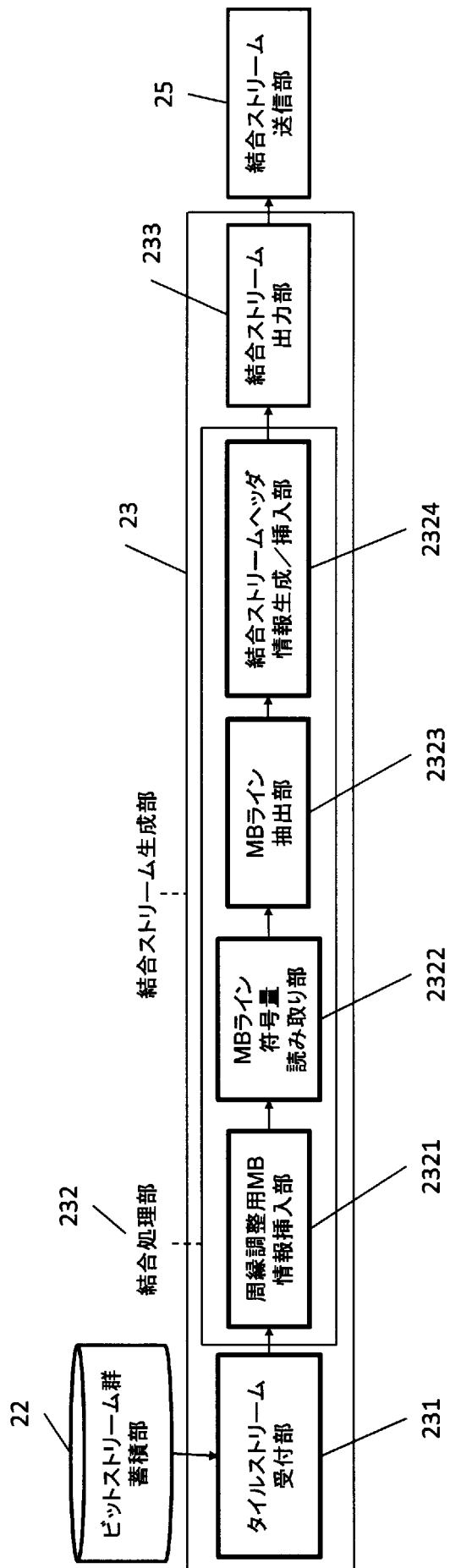
[図2]



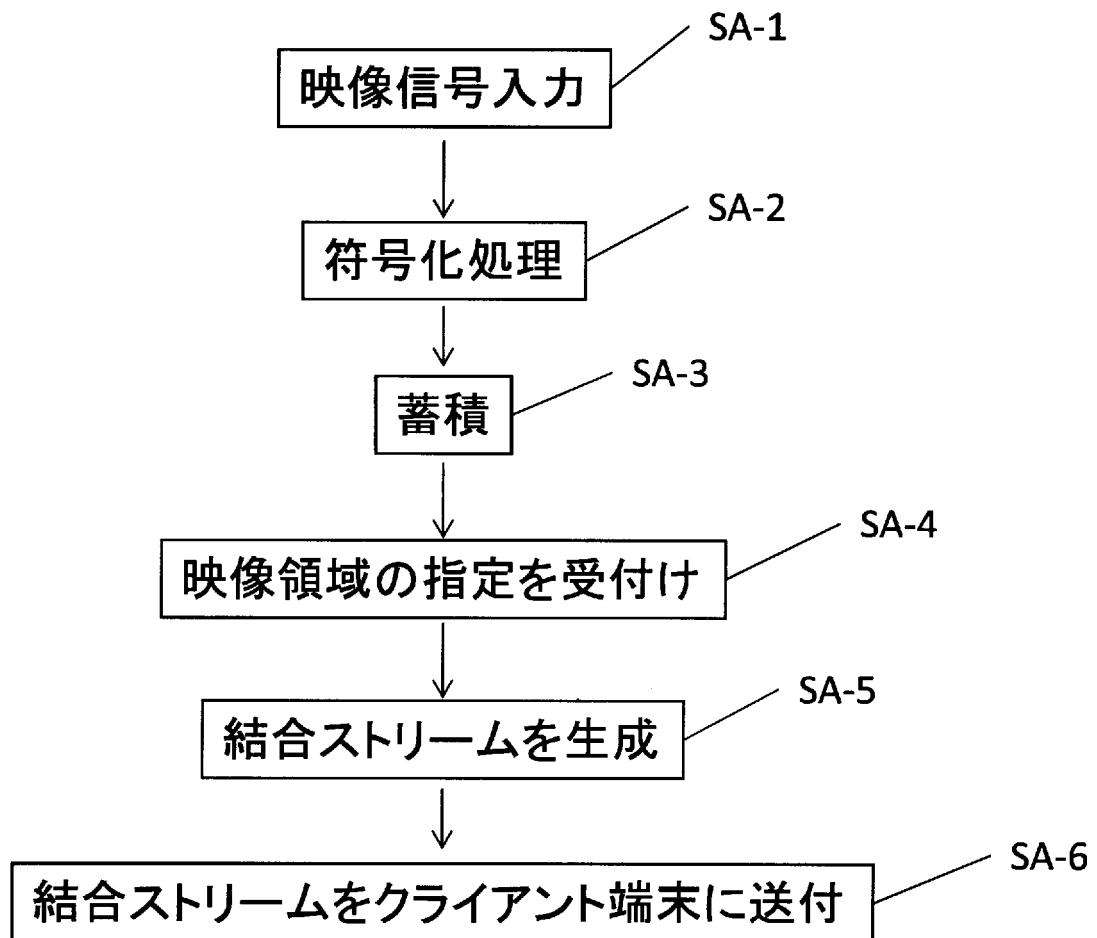
[図3]



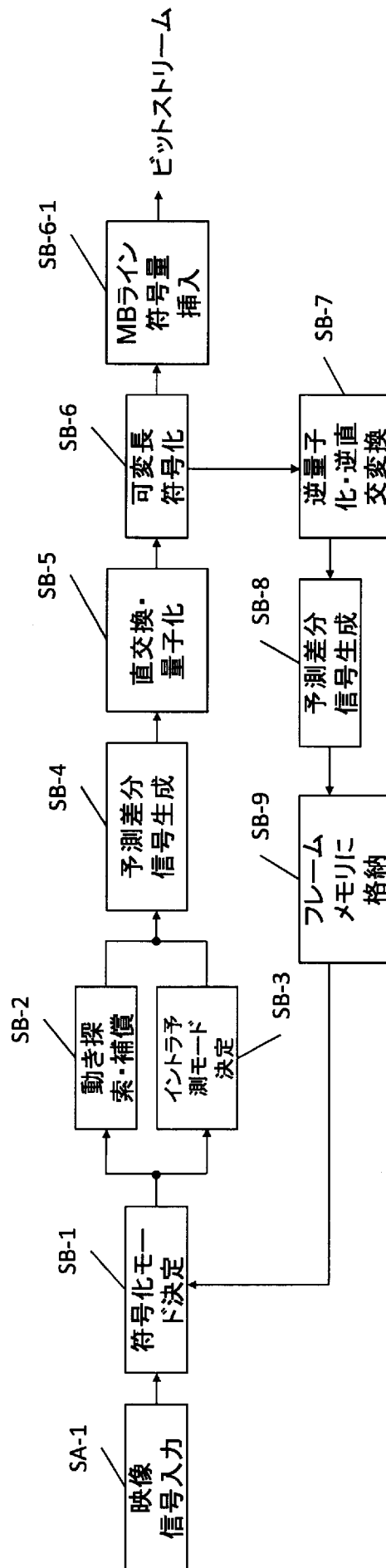
[図4]



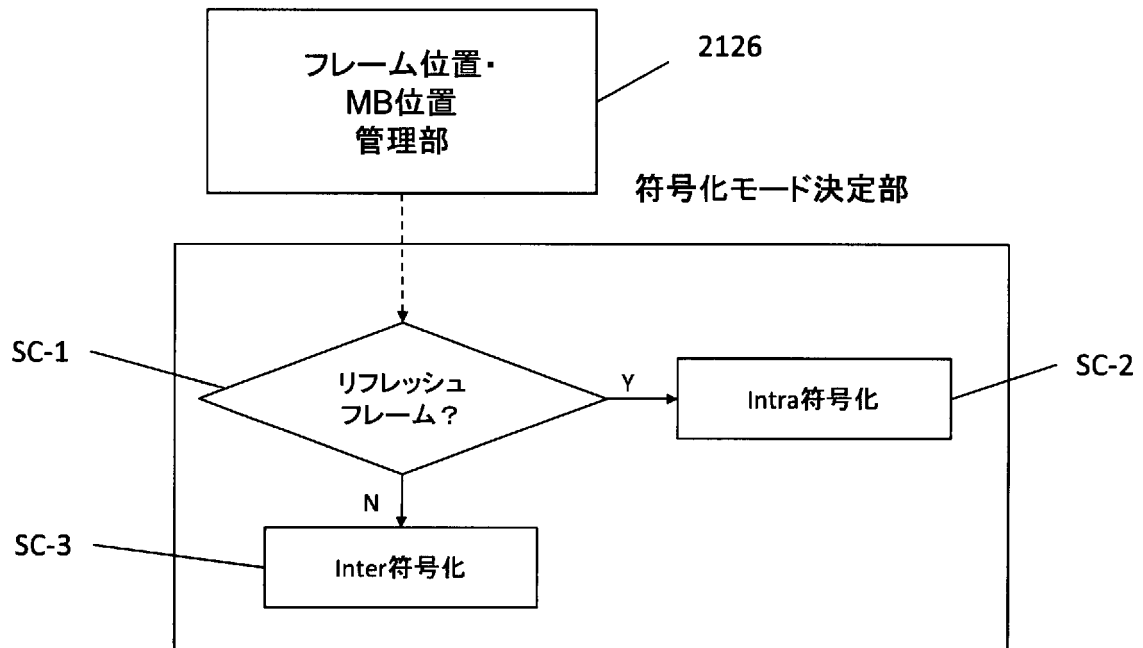
[図5]



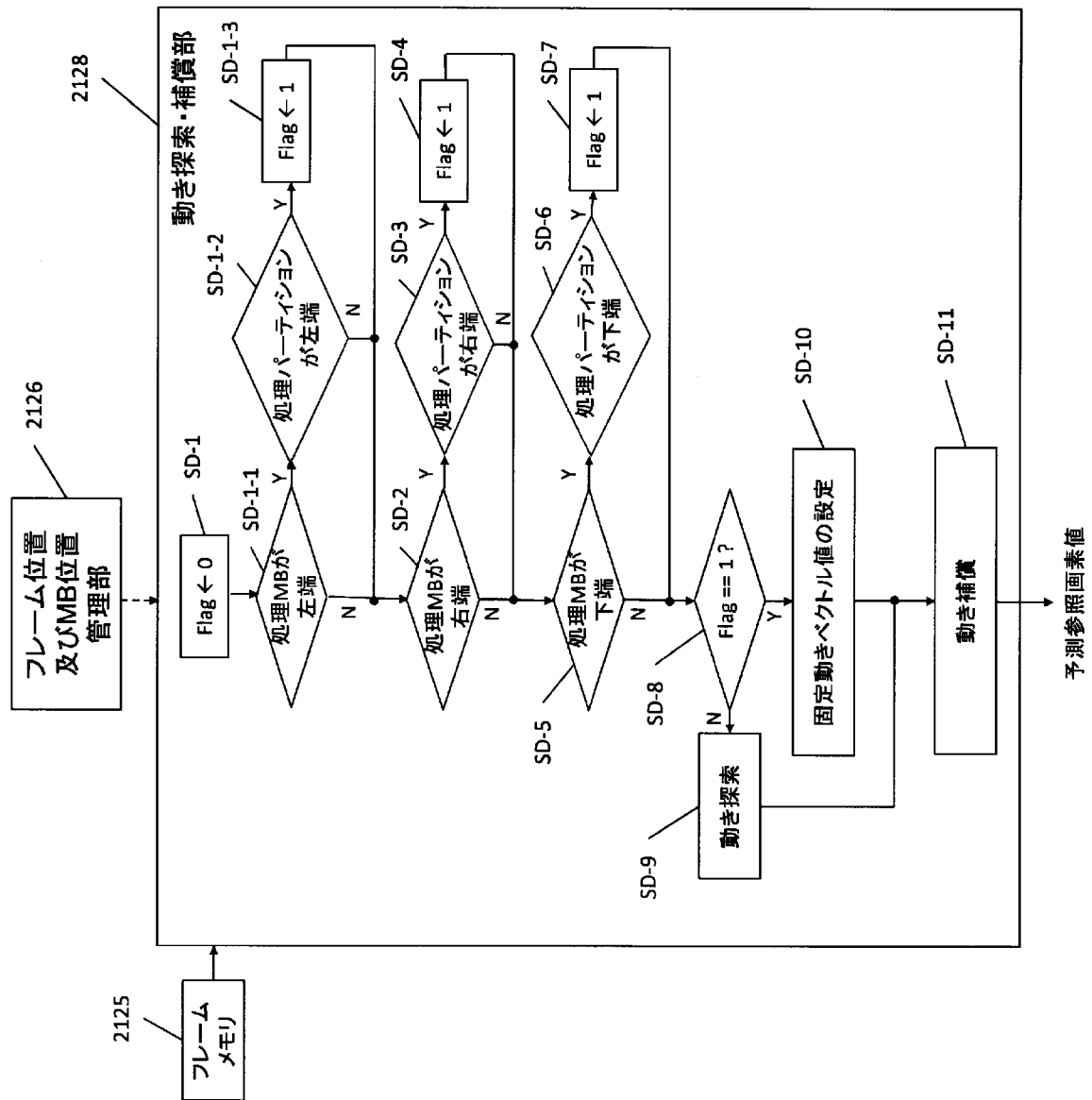
[図6]



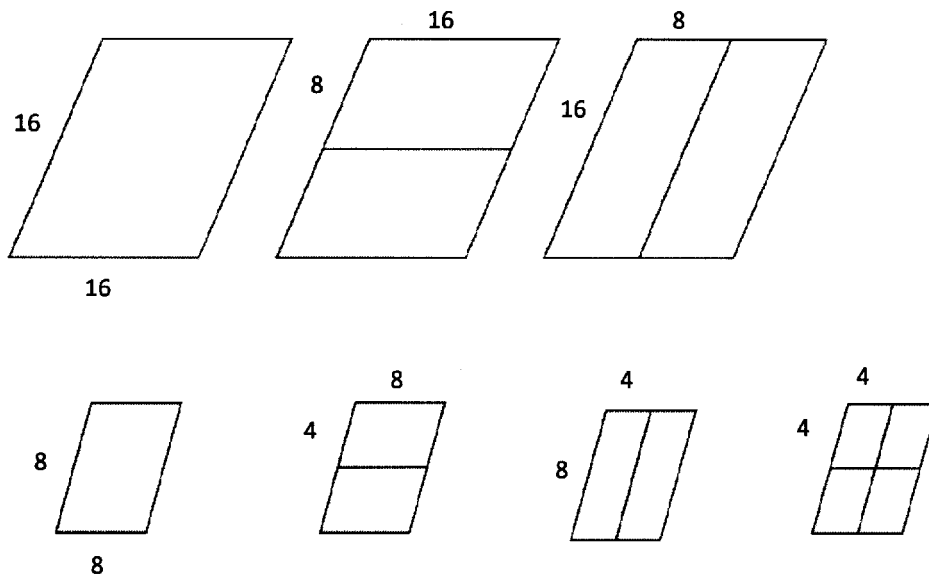
[図7]



[図8]

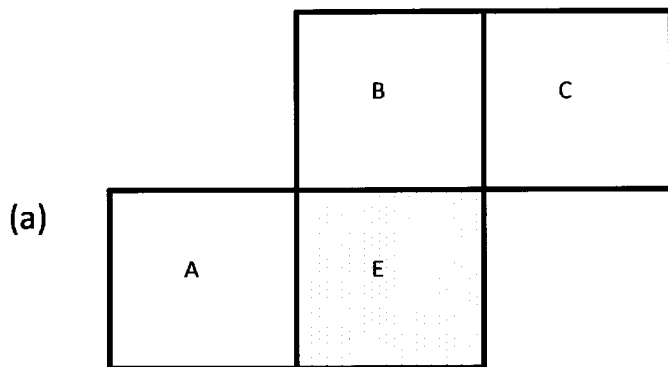


[図9]



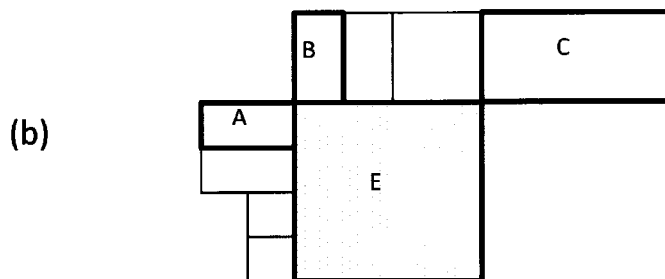
7種類のパーティションサイズ

[図10]



パーティションサイズが同じ場合

パーティションEが保持する
動きベクトル情報は、
パーティションA, B, Cが
保持する動きベクトル中央値との差
分值として符号化される



パーティションサイズが異なる場合



[図12]

リフレッシュレーム			
▲	●	● ● ● ●	● ●
*			■
*			■
*			■
*			■
*			■

リフレッシュレームでの
MB位置における
MBタイプ、予測モードの設定

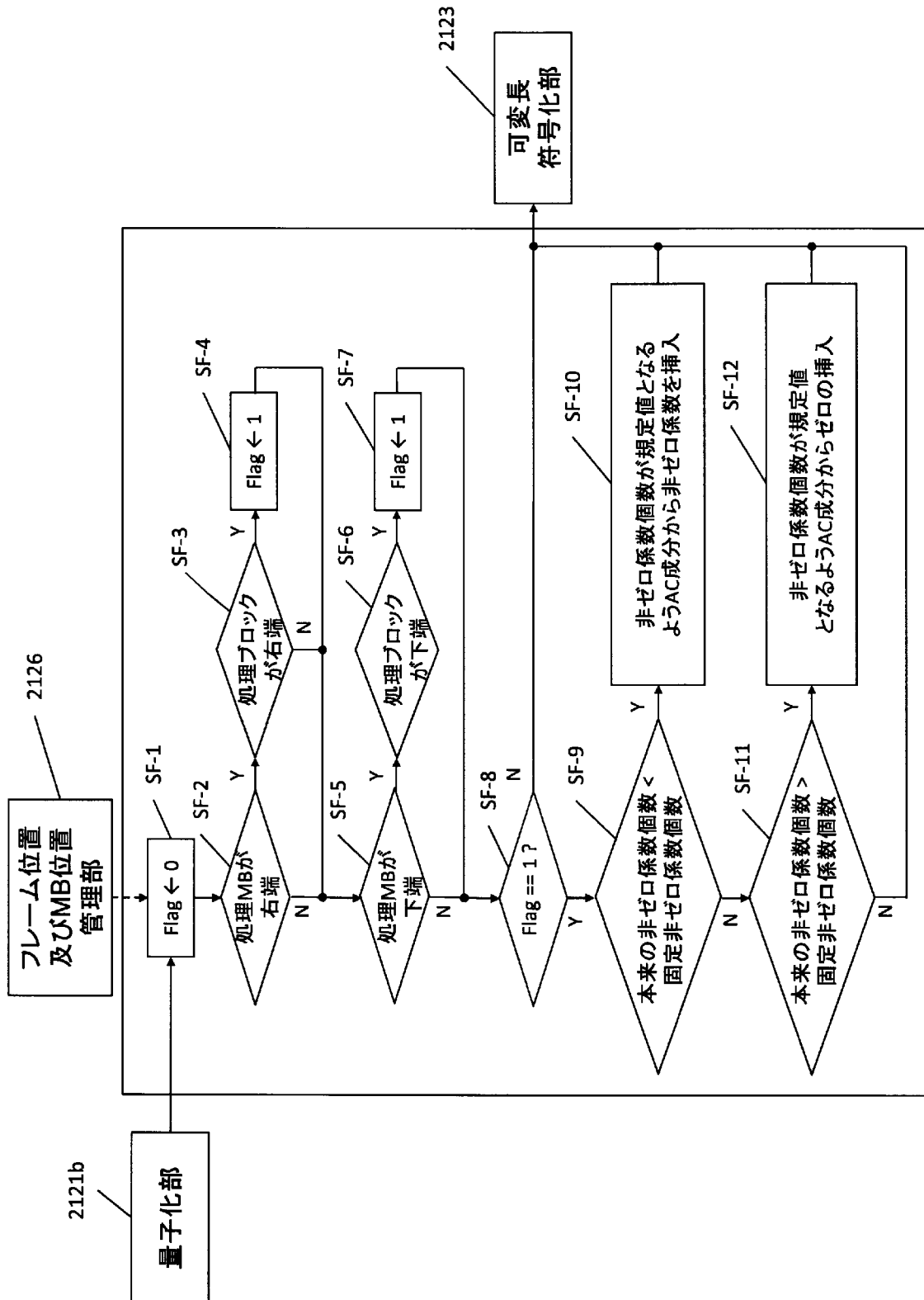
▲ : intra_I_PCM mode とするMB

● : Intra_16x16_Horizontal mode とするMB

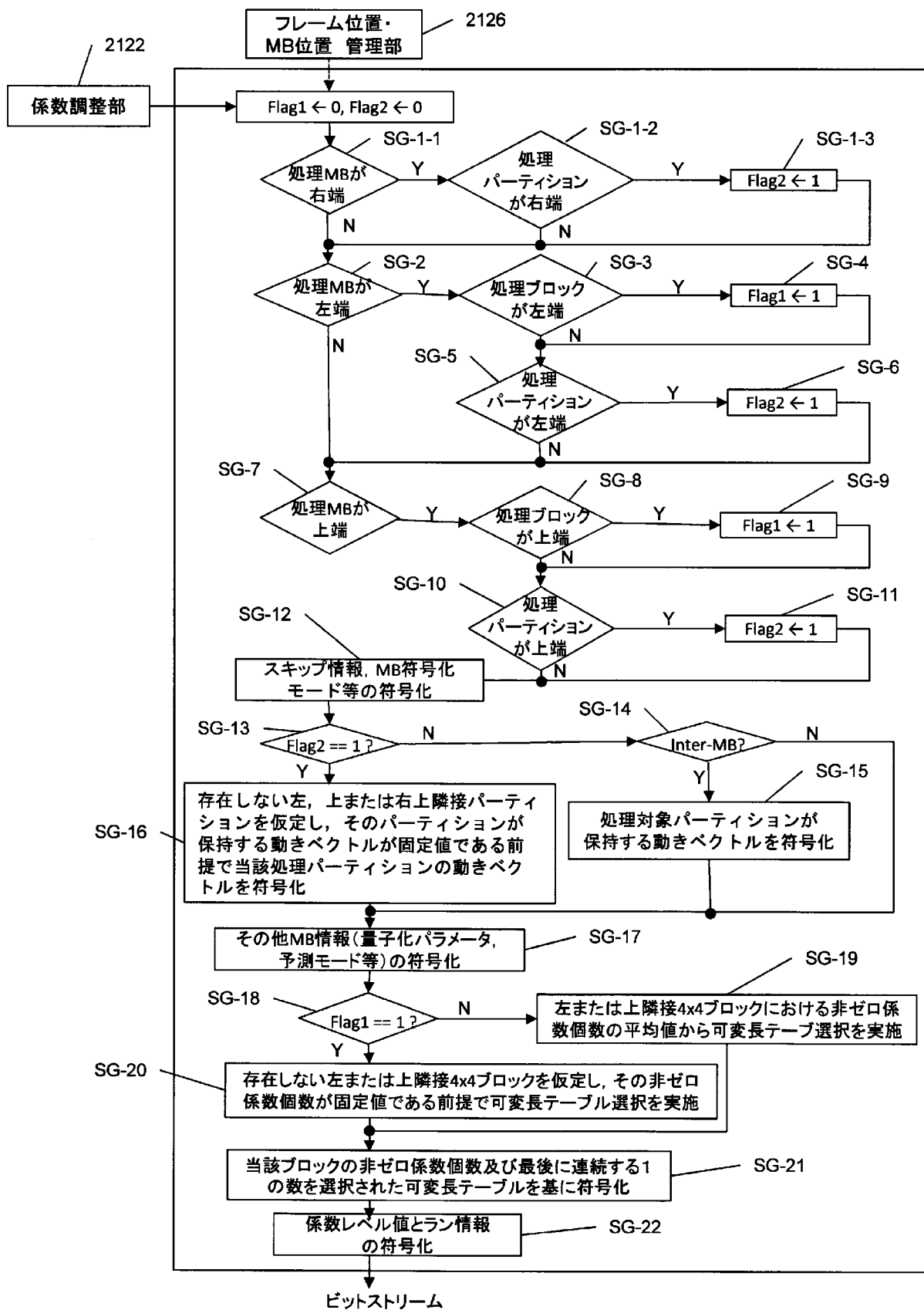
* : Intra_16x16_Vertical mode とするMB

■ : Intra_4x4_Diagonal_Down_Left mode,
Intra_4x4_Vertical_Left以外のmodeとするMB

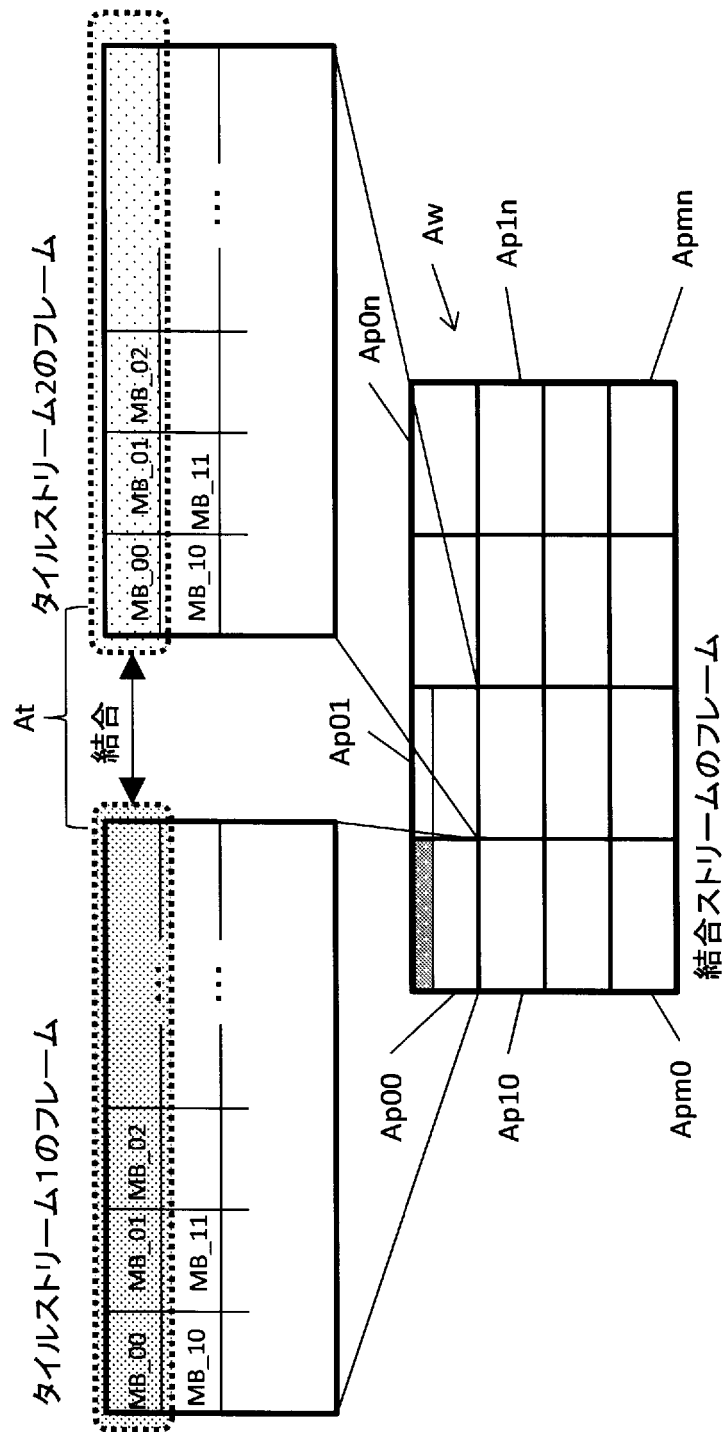
[図13]



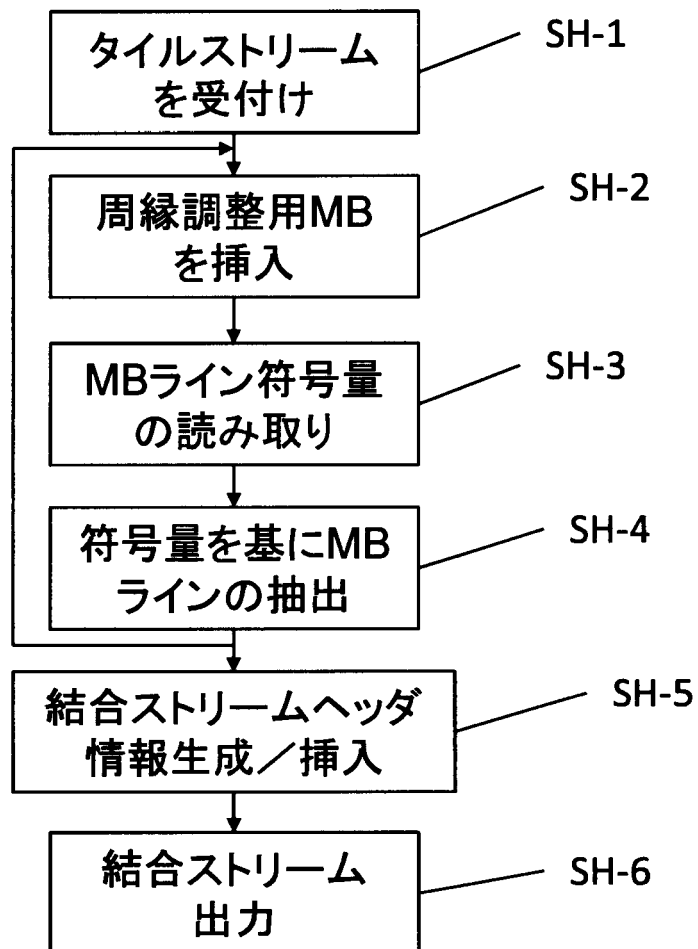
[図14]



[図15]

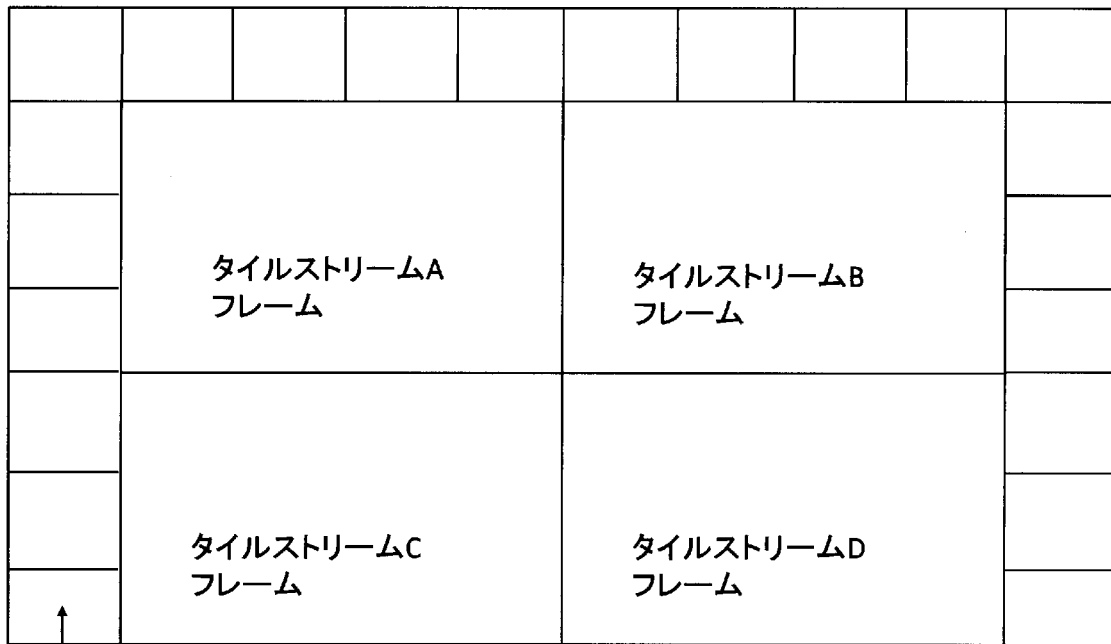


[図16]



[図17]

結合ストリームフレーム



黒色画素値MB

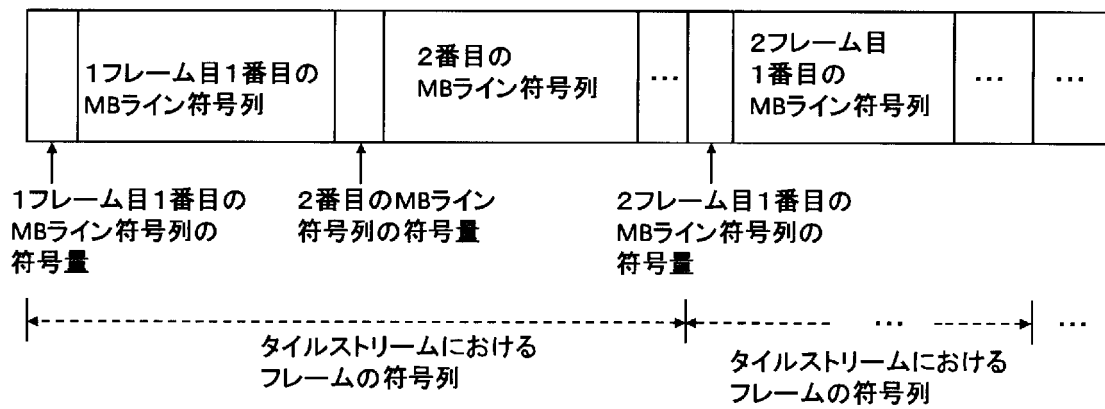
[図18]

- : intra_16x16のMBモードで、下端ブロックが固定非ゼロ係数個数となるようイントラ符号化(リフレッシュフレーム)
- : 下端ブロックが固定非ゼロ係数個数でかつ固定動きベクトルとなるようインター符号化(リフレッシュフレーム以外)
- △ : 符号化制限なし
- * : Intra_16x16のMBモードで、右端ブロックが固定非ゼロ係数個数となるようイントラ符号化(リフレッシュフレーム)
- * : 右端ブロックが固定非ゼロ係数個数でかつ固定動きベクトルとなるようインター符号化(リフレッシュフレーム以外)
- : 当該MBの左側に隣接する境界ブロックの非ゼロ係数個数が固定値であることを仮定してイントラ符号化(リフレッシュフレーム)
- : 当該MBの左側に隣接する境界ブロックの非ゼロ係数個数が固定値であり、かつ境界パーティションが保持する動きベクトルが固定動きベクトルであることを仮定して、当該MB自身も固定動きベクトルをもつようインター符号化(リフレッシュフレーム以外)

△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	△
*	タイル				結合ストリーム フレーム					■
*										■
*										■
*										■
*										■
↑										■

黒色画素値MB

[図19]



[図20]

